

(1) トマト

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	インプレッションクリア	ハチルスアミロクエファシエンス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300ℓ/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	カリグリーン	炭酸水素ナトリウム水溶剤	NC		800～1000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	-	トマト
	ジ-ファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		750～1000倍	150～500ℓ/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)
	テーク水和剤	シメコゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		800倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ネクスターフロアブル	イピラザム水和剤	7		1000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ハーモイト水溶剤	炭酸水素ナトリウム水溶剤	NC		800～1000倍	150～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
	園芸ボルト-	硫黄・銅水和剤	"UN(I*),M1		800倍	100～300ℓ/10a	-	散布	-	トマト
疫病	Zボルト-	銅水和剤	M1		400～600倍	100～300ℓ/10a	-	散布	-	トマト
	カスミンボルト-	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	ザンプロDM7フロアブル	アマトラジン・ジメトモル水和剤	40,45		1500倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		800倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
かいよう病	カスミンボルト-	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
菌核病	カンタストライフロアブル	ボスカルト水和剤	7		1000～1500倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000～1500倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	スクレアフロアブル	マンデストロピン水和剤	11		2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
すすかび病	シグナムWDG	ピラクrostロピン・ボスカルト水和剤	11,7		2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		3000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	園芸ボルト-	硫黄・銅水和剤	"UN(I*),M1		500倍	100～300ℓ/10a	-	散布	-	トマト
苗立枯病	オーソサイト水和剤80	キャプタン水和剤	M4		800倍	2ℓ/m ²	は種後から2～3葉期まで	灌注	5回以内	トマト
					種子重量の0.2～0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	トマト
苗立枯病(リゾグニア菌)	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	3ℓ/m ²	は種時又は活着後 但し、定植 14日後まで	土壌灌注	2回以内	トマト
	バシタック水和剤75	メプロニル水和剤	7		750～1500倍	3ℓ/m ²	は種時～子葉展開時	土壌灌注	1回	トマト
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	トマト

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
灰色かび病	アフェットフロアブル	ペンチオラト水和剤	7		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	インプレッションクリア	ハチルスアミロクエファンシス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300 μ g/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	カンタストライフロアブル	ボスカリト水和剤	7		1000～1500倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000～1500倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	シグナムWDG	ピラロクストロビン・ボスカリト水和剤	11,7		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	スミレックス水和剤	ブロシトリン水和剤	2		1000～2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	セイビアフロアブル20	フルジオキノール水和剤	12		1000～1500倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	パレート20フロアブル	ピラジフルミト水和剤	7		2000～4000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ピクソDF	フェンピラミン水和剤	17		2000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリペンカルブ水和剤	11		2000～3000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	フルビカフロアブル	メパニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	ホトキラー水和剤	ハチルスズンチリス水和剤	BM2		10～15g/10a/日		発病前～発病初期	タケ外内投入	-	野菜類
					1000倍	150～300 μ g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
					300g/10a	6～10 μ g/10a	発病前～発病初期	常温煙霧	-	野菜類
	ホリオキシAL水和剤	ホリオキシ水和剤	"[-] (I*)		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
ロブテール水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000～1500倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	
				200g/10a	5 μ g/10a	収穫前日まで	常温煙霧	3回以内	トマト	
葉かび病	カスミンボルトー	カスカマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	カリグリーン	炭酸水素カルウム水溶剤	NC		800倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	-	トマト
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000～1500倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		800倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	トーシヤスフロアブル	シアゾファミド・TPN水和剤	21,M5		1000倍	150～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	ニマイハール水和剤	ジエトフェンカルブ・ベノミル水和剤	1,10		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ネクスターフロアブル	イソピラザム水和剤	7		1000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	パレート20フロアブル	ピラジフルミト水和剤	7		2000～4000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリペンカルブ水和剤	11		2000～3000倍	100～300 μ g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
葉かび病	園芸ボルトー	硫黄・銅水和剤	"UN(I*),M1		500倍	100～300 μ g/10a	-	散布	-	トマト

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
斑点細菌病	Zボルト-	銅水和剤	M1		500倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	カスミンボルト-	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
斑点病	ロブラル水和剤	イブロジオン水和剤	2		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
輪紋病	Zボルト-	銅水和剤	M1		400～600倍	100～300g/10a	-	散布	-	トマト
	カスミンボルト-	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	ジマンダイオン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		800倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ダユニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
アザミウマ類	スピノエース顆粒水和剤	スピノサト水和剤	5		5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
アブラムシ類	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリト水和剤	4A	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	アベイル粒剤	アセタミプリド・シアントラニリブロール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	トマト
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
	ジエイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
	チェス顆粒水和剤	ピメトジソン水和剤	9B		5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ベリマークSC	シアントラニリブロール水和剤	28		400株当り25mL	400株当り10～20g(1株当り25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	トマト
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	オオカガ	アファーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内
エスマルクDF		BT水和剤	11A		1000倍	100～300g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
カスケード乳剤		フルフェノクスロン乳剤	15		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
スピノエース顆粒水和剤		スピノサト水和剤	5		5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
マツチ乳剤		ルフェヌロン乳剤	15		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
マトリックフロアブル		クロマフェジト水和剤	18		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
オシツコジラミ		アデイオン乳剤	ペルメトリン乳剤	3A		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
	ジエイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
オシツコジラミ幼虫	アプロート水和剤	ブプロフェジソン水和剤	16		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
コナジラミ類	アグ リメック※	アバ メチン乳剤	6	劇	500～1000倍	100～300% _{10a}	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	アト マイヤー水和剤	イミダ クロプ リト 水和剤	4A	劇	2000倍	100～300% _{10a}	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	アネキ乳剤※	レピ メチン乳剤	6		1000～2000倍	100～300% _{10a}	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	アペ ール粒剤	アセタミプ リト ・シアントラニリア ロール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	トマト
	アルパ リン顆粒水溶剤※	ジ ノテフラン水溶剤	4A		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパ ーポ ット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0%) _{10a}	鉢上時又は定植時	灌注	1回	トマト
					2000～3000倍	100～300% _{10a}	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	グ レーシア乳剤	フルキサメタミト 乳剤	30		2000倍	100～300% _{10a}	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	コルト顆粒水和剤※	ピ リリルキナゾ ン水和剤	9B		4000倍	100～300% _{10a}	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	スタークル顆粒水溶剤※	ジ ノテフラン水溶剤	4A		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパ ーポ ット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0%) 4.0%) _{10a}	鉢上時又は定植時	灌注	1回	トマト
					2000～3000倍	100～300% _{10a}	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ダ ブルシューター-SE	脂肪酸グ リセリド ・スピ ノサト 水和剤	「-」,5		1000倍	100～300% _{10a}	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	チェス顆粒水和剤	ピ ートロシ ン水和剤	9B		5000倍	100～300% _{10a}	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	トランスフォーム70アール	スルホキサフロル水和剤	4C		1000～2000倍	100～300% _{10a}	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	トレボ ン乳剤	エトフェンブ ロックス乳剤	3A		1000倍	100～300% _{10a}	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	プ リロツ粒剤オメガ	シアントラニリア ロール粒剤	28		2g/株		育苗期後半～定植時	株元散布	1回	トマト
					2g/株		鉢上げ時	育苗培土混	1回	トマト
	ペ ーストガ ート 粒剤	ニテンピ ラム粒剤	4A		1～2g/株		育苗期	株元処理	1回	トマト
					1～2g/株		定植時	植穴処理土 壤混和	1回	トマト
	ペ ーストガ ート 粒剤	ニテンピ ラム粒剤	4A		5g/培土%		は種時又は鉢上げ時	育苗培土混	1回	トマト
セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパ ーポ ット 1冊(30×60cm、使 用土壌約1.5～4%) _{10a}					育苗期後半	散布	1回	トマト		
ペ ーネビ アOD	シアントラニリア ロール水和剤	28		2000倍	100～300% _{10a}	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
コナジラミ類	ベリマークSC	シアントラニリブ ロール水和剤	28		400株当たり25mL	400株当たり10～20% (1株当たり25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	トマト
	モレスタン水和剤	キノキサリン系水和剤	UN*,M10		1500～2000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	ラノテープ	ピリプロキシフェン剤	7C		10～50m ² /10a		栽培期間中	作物体の付近に設置す	1回	野菜類(施設栽培)
	粘着くん液剤	テンソン液剤	「-」		100倍	150～300% /10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
トマトザニ	アフアム乳剤	エマメチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300% /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	イウフフロアブル	水和硫黄剤	UN*,M02		500～1000倍	100～300L/10a	発病前～発病初期	散布	-	トマト
	マッチ乳剤	ルフェスロン乳剤	15		2000倍	100～300% /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
ネコセンチュウ	ガードホープ液剤	ホスチアセート液剤	1B	劇	4000倍	2% /m ²	収穫前日まで	土壌灌注	1回	トマト
ハモンヨトウ	マッチ乳剤	ルフェスロン乳剤	15		3000倍	100～300% /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
ハダニ類	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	「-」,5		1000倍	100～300% /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
ハモグリバエ類	アフアム乳剤	エマメチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300% /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	アヘイル粒剤	アセタミプリト・シアントラニリブ ロール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	トマト
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	「-」,5		1000倍	100～300% /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ベネビアOD	シアントラニリブ ロール水和剤	28		2000倍	100～300% /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
ハモグリバエ類	ベリマークSC	シアントラニリブ ロール水和剤	28		400株当たり25mL	400株当たり10～20% (1株当たり25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	トマト
マメハモグリバエ	カスケート乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		2000～4000倍	100～300% /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
ミカンキイロアザミウマ	カスケート乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		2000倍	100～300% /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100～300% /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト

※ タバココナジラミバイオタイプQに効果あり（福井県農業試験場調べ）

トマト黄化葉巻病対策

1 トマト黄化葉巻病について

(1) 病原ウイルス

トマト黄化葉巻ウイルス(Tomato yellow leaf curl virus :TYLCV)

(2) 病徴

発病初期は、新葉が葉縁から退緑しながら葉巻症状となり、後に葉脈間が黄化し縮葉となる。病勢が進むと頂部が叢生し、基部の節間が短くなり株全体が黄化萎縮する。

(3) ウイルスの伝染源

罹病しているトマトと考えられる。

(4) ウイルスの伝染方法

タバココナジラミバイオタイプ B および Q によって媒介される。汁液伝染、種子伝染、土壌伝染、他の害虫（オンシツコナジラミなど）による虫媒伝染はしないが、接ぎ木伝染はする。

2 防除対策

物理的防除

- ・0.4mm 目以下の防虫ネットを展張し、タバココナジラミのハウス内への侵入を防ぐ(換気扇や遮光等施設内の高温対策が必要)。
- ・黄色粘着板を設置し、誘殺、発生消長の把握に用いる。
- ・太陽光反射マルチ、UV除去フィルムを利用し、タバココナジラミの侵入を阻止する。

耕種的防除

- ・冬期間中に無栽培期間を設け、伝染源となるトマトをなくす。また、ハウス内を寒さにあて、タバココナジラミの越冬を防ぐ。
- ・雑草はタバココナジラミの繁殖場所となるので、ハウス内外の除草を行う。
- ・発病株は見つけ次第すぐに抜き取る。その際、発病株は伝染源にならないよう土中に埋める、ビニール袋などで密封・枯死させてから廃棄する等して処分し、圃場周辺に放置しない。

化学的防除

- ・は種時にベストガード等の粒剤を混和する。購入苗は納入後すぐにベストガード等の粒剤を散布し、タバココナジラミの密度抑制に努める。(育苗期間の防除薬剤を確認しておくこと)
- ・タバココナジラミの発生が見られたら、すぐに防除する。
- ・散布時は、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。(下表参考)

【参考】トマトのタバココナジラミ(コナジラミ類)防除薬剤の一覧

IRAC コード	防 除 方 法			農 薬 使 用 基 準		注 意 事 項	バイオ タイプ	
	薬 剤 名	使 用 濃 度	10アール 当たり使用量	使用時期 (収穫何日 前まで)	使 用 回 数		B	Q
3A	トレボン乳剤	1,000倍	100~300g	前日まで	2回		○	×
4A	ベストガード粒剤	植穴処理土壌混和 1~2g/株		定植時	1回		○	○
	ベストガード水溶剤	1,000~2,000倍	100~300g	前日まで	3回		○	○
	アドマイヤー水和剤	2,000倍	100~300g	前日まで	2回		○	△
	スタークル顆粒水溶剤	2,000~3,000倍	100~300g	前日まで	2回		○	○
	アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	100~300g	前日まで	3回		○	△
4A+28	アベイル粒剤		2g/株	育苗期後半~ 定植当日	1回		○	△
4C	トランスフォームフロアブル	1,000~2,000倍	100~300g	前日まで	2回		○	○
5未	ダブルシューターSE	1,000倍	100~300g	前日まで	2回		○	○
6	アニキ乳剤	1,000~2,000倍	100~300g	前日まで	3回		○	○
	アグリメック	500~1,000倍	100~300g	前日まで	3回		○	○
7C	ラノーテープ		10~50 m ²	栽培期間中	1回	施設栽培に限る	○	×
9B	チェス顆粒水和剤	5,000倍	100~300g	前日まで	3回		○	○
	コルト顆粒水和剤	4,000倍	100~300g	前日まで	3回		○	○
15	ノーモルト乳剤	2,000倍	100~300g	前日まで	2回		○	△
16	アブロード水和剤	1,000倍	100~300g	前日まで	3回	幼虫のみの登録	○	△

㉔	クリアザールフロアブル	2,000～4,000 倍	100～300ℓ	前 日 まで	2回		○	○
㉕	ベネビアOD	2,000 倍	100～300ℓ	前 日 まで	3回		○	○
	ブリロッソ粒剤		2g/株	育苗期後半～ 定 植 時	1回		○	○
	ベリマーク SC	25 ml/400 株	10～20ℓ/400 株	育苗期後半～ 定 植 当 日	1回		○	○
㉖	グレーシア乳剤	2,000 倍	100～300ℓ	前 日 まで	2回		○	○
UN	モレストン水和剤	1,500～2,000 倍	100～300ℓ	前 日 まで	5回		○	△
未	粘着くん液剤	100 倍	150～300ℓ	前 日 まで	—		○	○

※JA 全農、福井県農試調べ ○・・・効果あり △・・・効果あるものと劣るものがある ×・・・効果劣る

トマト灰色かび病、葉かび病防除対策

1 発生生態

灰色かび病…果実、花卉、葉、茎に発生。被害部が褐変して灰色のかびを生じる。発病適温は 15～23℃ (22～23℃で湿度が 85～90%以上の条件が続くと激発)。胞子の飛散は曇雨天の時に多い。

葉かび病 …葉に発生。初めは退色～白色の円形病斑が形成され、その後拡大し、葉裏に灰黄色～灰褐色のビロード状のかびを生じる。発病適温は 20～25℃。多湿条件で多発。感染から発病までの期間は約 2 週間。外観ですすかび病との区別は困難。

2. 防除のポイント

- 1) 換気や灌水量に注意。低温時は暖房機や循環扇による通風により植物体への結露を防止し、施設内の湿度低下に努める。
- 2) マルチを行い、ハウス内の湿度の上昇や土壌からの病原菌の伝染を防止する。
- 3) 整枝、剪定により過繁茂を避け、採光や通風をよくする。また、適切な肥培管理に努め、健全な生育を促す。
- 4) 発病した果実や葉等は伝染源となるため、速やかに除去し圃場外で処分する。
- 5) 発病前から薬剤散布を行い、予防に努める。
- 6) 耐性菌の発生を抑えるため、同一系統および同一薬剤の連用は避け、系統をかえてローテーション散布を行う。

【参考】 トマトの灰色かび病、葉かび病防除薬剤

FRAC コード	農薬の名称	使用時期	灰色か び病	葉かび 病	すすか び病	うどんこ 病	輪紋病	疫病
2	ロブラール水和剤	収穫前日まで	○				○	
	スミレックス水和剤	収穫前日まで	○					
1+10	ゲッター水和剤	収穫前日まで	○	○				
	ニマイバー水和剤	収穫前日まで	○	○	○	○		
12	セイビアフロアブル 20	収穫前日まで	○					
9	フルピカフロアブル	収穫前日まで	○					
3+M3	テーク水和剤	収穫前日まで		○		○		○
3	トリフミン水和剤	収穫前日まで		○	○	○		
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	収穫前日まで	○	○	○			
7	アフエットフロアブル	収穫前日まで	○	○	○	○		
	カンタスドライブフロアブル	収穫前日まで	○	○				
	パレード 20 フロアブル	収穫前日まで	○	○	○	○		
	ネクスターフロアブル	収穫前日まで	○	○	○	○		
7+11	シグナム WDG	収穫前日まで	○	○	○	○		
M7	バルコート水和剤	収穫前日まで	○	○				
21+M5	ドーシャスフロアブル	収穫前日まで		○			○	○
24+M1	カスミンボルドー	収穫前日まで		○			○	○
19	ポリオキシ AL 水和剤	収穫前日まで	○	○				
BM2	インプレッションクリア	発病前～発病初期まで	○	○	○	○		
	インプレッション水和剤	発病前～発病初期まで	○	○		○		
	エコショット	収穫前日まで	○	○				
	ボトキラー水和剤	発病前～発病初期まで	○			○		
	ボトピカ水和剤	発病前～発病初期まで	○					
M5	ダコニール 1000	収穫前日まで	○	○	○	○	○	○
M3	ジマンダイセン水和剤	収穫前日まで		○			○	○
17	ピクシオ DF	収穫前日まで	○					
NC	カリグリーン	収穫前日まで	○	○		○		
	ハーモメイト水溶剤	収穫前日まで	○			○		

※農薬の使用にあたっては、必ず使用濃度、使用量、使用回数等を確認すること。

注) 地域により、灰色かび病、葉かび病に対する N-フェニルピコリド系、スチルベン系薬剤効果が低下しているところがあるので、注意する。